

中国語と日本語における程度副詞の対照研究
— 程度の小ささを表す副詞を中心に(一) —

時 衛 国

1、はじめに

動作・行為や状態・事柄・数量・距離などの程度が小さいことを表す副詞は中国語では「稍微(shaowei)」「略微(luewei)」「稍稍(shaoshao)」「略略(luelue)」「多少(duoshao)」「有点(youdianr)」など、日本語では<少し><少々><ちょっと><多少><いささか><やや>(注1)などが挙げられる。

「稍微」は話し言葉にも書き言葉にも用いられ、使用範囲が広い。「稍稍」「略略」は主に書き言葉として使われ、話し言葉にはほとんど用いられない。「略微」はどちらかというところ、やや硬い感じはするものの、日常会話にもよく使われる。「多少」「有点」は広く話し言葉に用いられる。

<少し>は話し言葉にも書き言葉にも用いられるという点において「稍微」とまったく同じである。<やや>はやや硬い文章語で、くだけた会話にはあまり使わないが、<いささか>はかなり文章語的。そして<少々><多少>は文章語的とはいえ、それほど強くはないという点では「略微」「多少」に近く、よく改まり表現に使われる。<ちょっと>は口頭語として主に話し言葉に使われ、「有点」と似ている。

この中で、「稍微」と<少し>、「略微」と<少々>、「多少」と<多少>、「有点」と<ちょっと>はそれぞれ文体的にも意味的にも近似し、大体同じレベルにあるものと考えられるので、本稿ではその意味用法を中心に、これまでの研究を踏まえながら、中日両語の程度副詞の共通点と相違点について論究してゆく。

なお、紙幅の都合上、今回は動詞修飾の場合だけを考察し、その他の用法については別稿に譲ることとする。

2、先行研究

「稍微」「有点」について呂叔湘氏のまとめた『現代漢語八百詞』(1980)には次のように記述されている。(注2)

「稍微」〔副〕表示数量不多或程度不深。也写作'稍为'。(〔副詞〕数量が多くなかったり程度が深くなかったりすることを表す。また「稍为」とも書く——引用者訳。以下同じ)

a) 稍微+動。动词常重叠、或前面有副词'一'、或后面有'一点儿、一些、一下'。(「稍微+動詞」。動詞がよく重ね形をとったりその前に副詞「一」あるいはその後に「一点儿」「一些」「一下」などが来たりする)

c) 稍微+不+形/動。限于'留神、注意、小心'等。(「稍微」+「不(ない)」+形容詞あるいは動詞。「留神(気を付ける)」「注意(注意する)」「小心(用心深い)」などに限る)(同 p 423-424)

「有点儿」〔副〕表示程度不高：稍微。多用于不如意的事情。(程度が高くないことを示す。少し。好ましくない事柄に用いられることが多い)

a) 有点儿+形/动。形容词、动词多半是消极意义的或贬义的。形容词之前可以加'太'。(「有点儿+形容词あるいは動詞」。形容詞、動詞は消極的な意味あるいはマイナスの意味を示すものが多い。形容詞、動詞の前に「太(甚だしい程度を表す副詞、<余りに><余りにも>に相当する——引用者)」が用いられる。

b) 有点儿+不+形/动。形容词、动词多是积极意义的或褒义的。(「有点儿+不+形容词あるいは動詞」。形容詞、動詞は積極の意味やプラスの意味を表すものが多い)(同p559)

「略微」「多少」について『現代汉语副詞分類实用词典』(1989)には次のように述べられている。

略微：稍微(表示程度轻微。表示时间短促。表示数量不多、范围不大。常同"点、些、一点、一些、一下、几"等配合实用)。(少し。程度が軽いことを表す。時間が短いことを表す。数量が多くなかったり範囲が大きくなかったりすることを表す。「点」「些」「一点」「一些」「一下」「几」などと共起することが多い)(同p31・173・283)

多少：稍微、或多或少(表示具有一定的数量或达到一定的限度。常与"点""些"等配合、表示限度小。表示强调)。(少し、多かったり少なかったりすること。一定の程度があることや一定の限度に達することを表す。よく「点」「些」と共起し、限度が小さいことを表す。強調の意味を表す)(同p29・282)

『現代漢語八百詞』は「略微」「有点儿」の用法について詳細に記述しているのだが、しかしまだ不十分な点がある。例えば、「略微+動詞」という場合であるが、どんな動詞を修飾し、どんな動詞を修飾できないのかについての記述がない。また「有点儿」について、形容詞、動詞を修飾できるとはいえ、どんな語が修飾でき、どんな語が修飾できないのか、例えば、「有点」は「有点同情(ちょっと同情する)」のように動きが表面に表れない動詞は修飾できるが、「*有点说(「ちょっと言う」の意)」のように動きが表面に現れる動詞は修飾できない。これについて説明されていない。一方、『現代漢語副詞分類实用词典』は「略微」「多少」について対象語を修飾する場合に共起語句を必要とするという記述に止まり、共起語句を対象語によりどういうふうに使分け、文法上語選択による制約を受けるかどうかには言及していない。たとえば、「略微」「多少」は「点」「些」と共起して動詞を修飾する時、「略微/多少吃点/些」のように「吃」とは共起できるが、「*略微/多少坐点/些」のように「坐」とは共起できない。これについては詳しく説明する必要があると思う。

一方、<少し><少々><ちょっと>について森田良行氏の『基礎日本語辞典』(1989)では、次のように記述されている(注3)。

<少し> 副 数量や事柄・状態などの程度があまり大きくないこと。「小さい」と違って、標準や比較の対象に対しての数量の相対的評価ではない。あくまで、その状態においての程度の多少を問題としている。「少し多い／少し少ない」と言えるように、プラス・マイナス両面において、その程度ぐあいを「少し」と評価することができる。「かなり」「そうとう」などと対応する。

「少し」で表せる程度の対象として次のようなものがある(注4)

{三} 状態———— 見える、できる、似ている、ある、おかしい、悪い、うるさい、忙しい、賑やかだ、綺麗だ、上等の～、足りない

{四} 動作・作用・減少—— 働く、休む、忘れる、思い出す、残す、光る、振る、動く、進む、あわてる

(中略){三}は「すこし————ている」の文型で用い、{四}は「すこし————が————する」(自動詞)「すこし————を————する」(他動詞)の文型で用いる。(同p553-558)

(「少々」「ちょっと」は)両語とも意味面では「少し」と変わらない。(中略)文体的には「ちょっと」は口頭語、「少々」は改まり表現に用いられる。「少々／少し／ちょっと」の順で丁寧度は落ちる。(注5)。(同p556)

飛田・浅田著『現代副詞用法辞典』(1994)では、<少し><少々><多少><ちょっと>についてそれぞれ説明されているので、次に抜粋する。

<少し> (1)数・量・時間・距離・程度などが少ない様子を表す。(中略)(1)の「すこし」は客観的に、数・量・時間・距離・程度などが少量ではあるが存在するという、存在のほうに視点をおいた言い方であって、非存在のほうに視点をおいた「少ない」と異なる。(中略)(2)感情や判断の表明を婉曲にする様子を表す。(注6)(同p203)

<少々>数量や程度が少ない様子を表す。(中略)ややかたい文章語で公式の発言やあらたまった挨拶などによく用いられる。数量や程度が少ないことをやや客観的に表し、数量の場合には計量できる程度の少量を意味することが多い。(同p193)

<多少>(前略)具体的に限定できない数量や程度が少ないことを客観的に表すが、話者の意識としては存在するほうに視点がある。(中略)「たしょう」は「しょうしょう(少々)」や「すこし」と異なり、数量や程度の少なさを漠然と示し、明確な少量を示す場合には用いられない。(同p264)

<ちょっと>数量や程度などが少ない様子を表す。(中略)かなりくだけた表現で、日常会話中心に用いられる。標準的には「すこし」を用いる。(中略)また、「ちよっ

と」は「すこし」と同様、数量や程度が少量ながら存在するという意味で、非存在に視点がある「すくない」とは異なる。(同p292)

『基礎日本語辞典』は<少し>についてたくさんの用例を挙げながら説明しているのであるが、その分類ははっきりしないことが多い。もっと細かく分類をしなければならない。例えば、{三}のところでは形容詞と動詞が同じように扱われているが、それらを分けて考えたほうがよいのではないかと思う。『現代副詞用法辞典』は「<(2)は>(1)の(10)－(13)から進んだ用法で、特に程度を具体的に限定しない場合である。」としながら、(1)と(2)との根本的な違いについての説明がない。<少々><多少><ちょっと>については、『基礎日本語辞典』の記述はいずれも簡単になされており、<少し>との区別や位置付けには触れていない。『現代副詞用法辞典』はその意味の説明は詳細に行われているが、分類の基準は明示せず、その意味と用法との文法的関係も明らかにされていない。これまでの先行文献を踏まえて諸語の意味用法や文法的関係などを深く研究しなければならない。

なお、考察語に関しては丹保健一氏(1981)、沖久雄氏(1983)(注7)などの論があるが、その引用は割愛する。

3、分析

3. 1. 動詞の肯定形式

- (1) 稍微／略微／多少／*有点想想。(少し考えてみる)(注8)
- (2) 少し／?少々／#多少／ちょっと考えてみる。
- (3) 稍微／略微／多少／*有点等一下。(少し待ってください)
- (4) 少し／?少々／#多少／ちょっと待ってください。

「稍微」「略微」「多少」は単独では動詞を修飾することができない。動詞の重ね形(1)や「一下(3)」などの数量詞と共起しなくてはならない。もしそうでなければ、

- (5)*{稍微／略微／多少}想／等。

などのようにそれらを修飾することができない。というのは、「稍微」「略微」「多少」は、程度の小ささや数量・時間の少なさを表すに止まり、その具体的な程度・数量・時間などを表すことができないからである。被修飾語を数量的・時間的・程度的に修飾する場合には、その重ね形や「一点」「一下」「一会儿」などに助けを借りなくてはならない。一方、共起語句に用いられるものは、「一点」「一下」などのようにおおよその数や量や時間・程度などを示すフレーズでなければならず、文中においては、「稍微」「略微」「多少」と共起することによって意味的に補い合って、被修飾語があらわす内容の数量・時間・程度などの概念をもつばら表すことになる。従って、共起語句によっては同じ動詞であっても、表す意味が異なってくることもある。例えば、「稍微想一下」における「一下」は、「想」という動詞の程度が小さいことを表すが、「稍微想一会儿」における「一会儿」は、その時間の短いことを表す。だが、「稍微」の略と思われる「稍」は、

- (6) 稍候(一下)。(ちょっと待ってください)
- (7) 稍等(一会儿)。(少し待ってください)

のように共起語句がなくても修飾することができる。もちろん重ね形や数量詞と一緒に用いられた場合は、その程度の小ささや時間・量の少なさが更に強調されることになる。そして「稍」は一字音語だから、修飾される動詞も一字音語でなければならず、それ以外の動詞とは「*稍等候一下(「少し待ってください」の意)」のように共起することができない。また現代中国語において「略微」の略と見られる「略」は、「*略候/略等」「*略等候一下」のように、一字音語をも二字音語をも修飾することができない。

(1)(3)のように「考える」「待つ」の時間量の少なさを表すという点では三語が共通しているが、ニュアンスや文体などの違いがあるという点ではそれぞれ異なっている。「稍微」は「稍微想想」「稍微等等」などのように「想」「等」の時間量をはっきり少なくするという意味合いを含んでおり、日常用語として主に明確な少量を表わす。「略微」は時間の小ささ・程度の小ささなどを明らかに示すという点では「稍微」に近いが、語気がそれより硬く、文章語として用いられることが多い。それらに対し、「多少」は不明確な少量を表わし、深入りせずに表面に止まるということに視点がある。それで「多少等等」はポーズだけをして誠意に欠けた対応という印象を受けかねない。「多少」は主に会話文に使われ、「稍微」「略微」よりくだけた感じがずっと強い。

「有点」は「想」「等」の重ね形だけでなく、それらの原形をも「*有点想/等」のように修飾することができない。「有点」は構造的に分析すると、動詞「有」+量詞「点」からなったもので、それ自体にすでに含まれた量的成分に制約されているので、動作・行為を表す動詞を修飾・限定することができないわけである。ここから見れば、その意味用法は、語自体の構造により大きく影響されるものと思われる。表面に動きが現れる動詞と共起することができないという点では上述の副詞とまったく違っている。

一方、<少し><ちょっと>はいずれもそのまま「考える」「待つ」を修飾することができる。中国語におけるような共起制限などはもたない。また、中国語の「一点」「一下」「一会儿」などの数量詞に対応するものは日本語にもない。<少し><ちょっと>によって修飾される動詞は重ね形をとることができない。<少し><ちょっと>はよく「———てみる」という形と一緒に用いられるが、併し、その形はただ「ためしに———する」「———-することを試みる」といった意味を表すにすぎず、必須的な共起条件というわけではない。例えば、

(8) 少し/ちょっと(考える・待つ)。

のようにいずれも単独に使い、必ずしも「———てみる」という形と共起するということではない。

<少々>はやや硬い文章語で改まった挨拶によく用いられるが、(2)を「?少々考えてみます」と直しても意味表現がまだ不十分なので、ほかの要素を添加することになる。もし「少々考えていただけませんか」「少々考えさせられる」などのようにまとまりのある事柄を表す場合、「少々」は共起できる。(3)では「待ってください」はあらたまった表現ではないので、「少々」とは文体的にバランスがとれない。「少々、お待ちください。只今、テーブルの御用意をさせますので———」(平岩弓枝「秋色(上)」p332)のように、丁寧な敬語表現と共起した場合は適格になる。

<少し>は文章にも会話にもよく使われるのに対し、<ちょっと>はくだけた表現として主に会話文に用いられる。例えば、

(9)「ちょっと待って！」そこで声がした。(曾野綾子「二十一歳の父」p16)

(10)「ちょっと待ってて」基次は急いで店の内側にとって返した。(同上p57)

(11)「ちょっと待ちなさい、忘れたものがある」酒匂は足早に寝室に戻ると、大阪で買ったエジコ人形の包みを持って玄関へひき返した。(同上p159)

(12)「ちょっとお待ち下さい。今帳場にきいてみますから」女中は電話機をとった。(同上p212)

では<ちょっと>はいずれも会話文に使われているが、(9)(10)のような省略表現にも(11)のような命令表現にも馴染み、場合によって(12)のような敬語表現と共起することもできる。但し、<ちょっと>(注9)はくだけた表現なので、敬語表現と共起した場合は標準的とは言いがたい。例えば、「お待ち下さいませ」という敬語表現に対して「?ちょっとお待ち下さいませ」のように<ちょっと>は用いられるが、<ちょっと>という修飾語と「お待ち下さいませ」という被修飾語とは文体的に一致せず、落ち着きが悪いと見られる。<少し>は<ちょっと>と比べると「少しお待ち下さいませ」のように落ち着きが少しよくなるが、不自然さが若干残る。この場合は<少々>は「少々お待ち下さいませ」のように、丁寧な表現として一番適格と言えよう。従って、改まった場合は<ちょっと><少し>より<少々>のほうが多用される。

<多少>は不確定な少量を漠然と示すという点において、<少し><ちょっと><少々>と大いに異なり、又、そのままでは被修飾語を限定することができない。というのは、<多少>は文字どおり「多かれ少なかれ」という意味から転じた副詞であって、そのまま使用されると、元の意味に左右されてしまうからである。併し、逆接をあらわす複文中の前節に使われた場合は、

(13) 私はその件について多少考えてはみたが、分からなかった。

(14) 日本人は多少考えたとしても、十二月八日という日を「水に流す」傾向がある。(「読売新聞」1991. 12. 7夕刊)

(15) 私はそこで多少待ったが、併し、結局、彼は来なかった。

のように<多少>は「考える」「待つ」を意味的に限定することができるようになる。とはいえ、「その件について、私は多少考えてみた。併し、分からなかった。」「私はそこで多少待った。併し、結局、彼は来なかった」というように、二文が連続し複文中の節とせぬ場合は、前文と後文とが逆接的關係にあり、後文があるだけに前文は切っても落ち着く。又、被修飾語と一緒に一つのまとまりのあるフレーズを構成した場合は、

(16) 多少考えるかもしれない。

(17) 多少待つかもしれない。

のように共起することができる。また「多少考えさせられる」「多少待っていただくことがあります」などのように用いられる。<多少>は曖昧な少量を表すほかにまた予想した事柄にもよく用いられるという点では<少し><少々>と共通している。例えば、駅員のアナウンスで、

(18) 悪天候のため、列車の発車時間は予定時刻より多少遅れる見込みです。

(19) 悪天候のため、列車の発車時間は予定時刻より少し遅れる見込みです。

(20) 悪天候のため、列車の発車時間は予定時刻より少々遅れる見込みです。

(21) ??悪天候のため、列車の発車時間は予定時刻よりちょっと遅れる見込みです。

では、「発車時間は予定時刻より遅れる」という情報について<多少>は明確な断定を避け、大幅に遅れることがないということを示唆、<少し><少々>は確定的な予告をし、遅れる時間量が多くないことを強調している。<少々>は<少し>より語気が柔らかく、丁寧なニュアンスを持っている。<ちょっと>はくだけた感じで丁寧な表現に適せぬせいか、このような業務連絡には使うことができない。「ちょっと遅れる」のように日常会話に用いられた場合は落ち着きが良くなる。とはいえ、

(22) 中島容疑者は帰宅途中で少し酒を飲んでいて(「読売新聞」1992. 3. 17夕刊)。

(23) 中島容疑者は帰宅途中で少々酒を飲んでいて。

(24) 中島容疑者は帰宅途中でちょっと酒を飲んでいて。

(25) 中島容疑者は帰宅途中で多少酒を飲んでいて。

では、四語はいずれも適格であり、それぞれニュアンスこそ異なれ、文体的には大きな差は見られない。ここから考えると、すでに実現した事柄・発生した状態を客観的に描写する場合には四語は文体や位相などによる制限をあまり受けないと思われる。例えば、

(26) さすがの私も、その時ばかりは(少し/少々/ちょっと/多少)慌てた。

においては、四語は意味的にはそれぞれ異なるものの、文体差と位相差は著しくないとと言える。「普段何時も冷静に対応できる私も例外なくその時だけは慌てた」という内容について、<少し><少々><ちょっと>ははっきり「慌てた」という事実を認め、その程度が大きくないことを表しているのに対し、<多少>はその事実を認めつつその程度を軽く表現するという感じを受ける。

(27) 稍微/略微/多少/#有点重视重视外语教学。(語学教育を重視して下さい)

(28) 語学教育を少し/?少々/多少/?ちょっと重視して下さい。

「稍微」「略微」「多少」<少し><多少><ちょっと>はいずれも「重視/重視する」を修飾することができる。<少々>はこの文脈に使われるとかなり不自然さが感じられる。「語学教育を?少々重視して頂けますか」のように敬語表現に使われた場合はその不自然さが少し少なくなる。「有点」は例えば、

(29)*有点重视外语教学。(「語学教育を重視する」の意)

(30) 有点重视外语教学了。(語学教育を重視するようになった)

「重視」などそれ自体に含まれた程度性はかなり高いことから、「很/非常重视(とても/非常に重視する)」のようにそれにふさわしいと思われる程度修飾は受け入れるものの、「有点」によって示される微小の程度修飾は受容しない。又「重視」はプラスの意味を持つ動詞であり、よく好ましい表現に用いられるのに対し、「有点」はマイナスの意味を持っており、好ましくない表現に用いられるのが普通である。よって、そのままでは「有点」は共起できないというわけである。但し、「有点」が「了」と共起した場合はある事柄・心的態度が現時点において起こった変化を表すので、(30)のようにプラスの意味を持つ語

とでも共起できるようになる。この場合、「了」は必須的共起語句として用いられたのである。併し、「反对」「轻视」などマイナスの意味を持つ動詞を修飾する時、「有点反对(反对する)」「有点轻视(轻视する)」などのように「有点」は「了」と共起しなくても使える。

一方、〈多少〉は他のまとまった意味を持つ語句と一緒に用いられた場合は、文の安定度が高くなり、客観性が強くなるので共起しやすくなる。「??多少重視するけど、——」などのように具体的場面に欠けた場合は、落ち着きが悪く、非常に不自然である。ところが、「都立大学の入試は、英語の成績を多少重視するけど、極端な傾斜採点ではない」「あの先生は、出席を多少重視する。(成績評価の場合の話)」「(注10)というような場合は、具体的な内容が明瞭でしかもよくまとまったセンテンスだから、共起できるようになる。又、請求を示す可能疑問表現に使われた場合は、「(語学教育を)多少重視して頂けますか」などのように、やや不自然な感じはするものの共起することができる。未実現の事柄を実現可能のものとして想定・把握し、更に実現させようと働きかけるといった場合は、〈多少〉の修飾を受け入れることが多い。この場合、〈少し〉〈ちょっと〉〈少々〉も「(語学教育を)少し/ちょっと/?少々重視していただけますか」のように共起することができる。

(31) *也许稍微/ *略微/ *多少受点。(「受けるかも知れない」の意)

(32) 也许稍微/ 略微/ 多少受点影响。(少し影響を受けるかも知れない)

(33) *也许有点受。(「受けるかもしれない」の意)

(34) 也许有点受影响。(ちょっと影響を受けるかも知れない)

(35) *少し/ *少々/ *多少/ *ちょっと受けるかも知れない。

(36) 少し/ 少々/ 多少/ ちょっと影響を受けるかも知れない。

両語の程度副詞はどちらも「受/受ける」をそのままに修飾することができないという点では共通している。ところが、「受影响」「影響を受ける」のように目的語をとって一つのフレーズを構成した場合には、あるまとまった意味を表すのでそれ全体に程度性が生じてくることから、両語の程度副詞によって修飾されることができるようになる。このように目的語や対象語をとってはじめてその程度性が認められる動詞は、中国語には「守(信用)(約束を守る)」「解决(問題)(問題を解決する)」「合乎(要求)(要求にかなう)」など、日本語には「(利益を)得る」「(要求に)かなう」「(自信に)満ちた(話)」などがある。又、

(37) *也许稍微/ *略微/ *多少费点。(「費やすかも知れない」の意)

(38) 也许稍微/ 略微/ 多少费点时间。(時間を費やすかも知れない)

(39) *也许有点费。(「時間を費やすかも知れない」の意)

(40) 也许有点费时间。(少し時間を費やすかも知れない)

(41) (その仕事は)少し/ 少々/ ちょっと(時間を)費やすかも知れない。

(42) (その仕事は)多少(時間を)費やすかも知れない。

のように、中国語では目的語を持たないと「費」は程度副詞と共起できないのに対し、日本語ではそれに対応すると考えられる「費やす」は、目的語を取らない場合でも(もちろん、目的語を取った場合は表現として安定している)、程度副詞によって修飾されることができる。前者では目的語は不可欠な共起要素であるが、後者では必ずしも目的語と共起す

るとは限らない。同じ意味の被修飾語とはいえ、目的語の有無によって共起条件が異なってくる。

3. 2. 動詞の否定形式

- (43)*{稍微/略微/多少}不注意。(「注意しない」の意)
- (44){稍微/略微/多少}不注意就出错。(注意しないとミスする)
- (45) 有点不注意。(注意しない)
- (46)*{少し/少々/多少/ちょっと}注意しない(注11)。
- (47)*{稍微/略微/多少}不轻视外语教学。(「語学教育を軽視しない」の意)
- (48)*有点不轻视外语教学。(「語学教育を軽視しない」の意)
- (49)*語学教育を{少し/少々/多少/ちょっと}軽視しない。

「有点」は「注意」の否定形式と共起することができる。動詞によってその肯定形式の程度だけでなく、その否定形式の程度をも示すことができる。このように否定形式も修飾され得る動詞は又、「支持」「賛成」「喜欢」「重视」「理解」などがあり、いずれもプラスの意味を表すものである。一方、「轻视」はマイナスの意味を持つ動詞だから、その否定形式は肯定形式と同様に程度性を含有していると思われるが、しかし「有点」には認められない。もし「有点」と一緒に用いられると、それ全体の意味はおかしくなってしまう。それゆえに共起できないわけである。

「稍微」「略微」「多少」はいずれも、そのままでは動詞の否定形式と共起することができないものの、(44)のように被修飾語の否定形式と一緒に文中に用いられた場合は、共起することができるようになる。この場合は「稍微不——就——(——しないと——)」という複文の構造に依存していると思われる。「现代汉语八百词」(1984)によると、この用法は「注意」「小心(気を付ける)」「留神(気を付ける)」などに限られ、それ以外の動詞は共起できないということである。また、これに対し、馬真氏は「稍微不——」はよく複文の中で条件節や仮定節に用いられ、共起できる動詞は「注意」「小心」「留神」「如意(気に入る)」「高兴(嬉しい)」「满意(満足する)」「习惯(慣れる)」「看得惯(見慣れる)」などに止まり、その否定形式には「一点」「一些」などの数量詞が付けないと指摘しているが、しかしながら、数量詞が付けられない理由については述べていない。その否定形式が「稍微」によって修飾される場合には、意味的に「稍微」に左右されてしまい、「一点」「一些」などの共起語句はそれに設定された意味合いと互いに排斥しあい、そのために共起することができないものと考えられる。(注12)

一方、<少し><少々><多少><ちょっと>は動詞の肯定形式だけを修飾し、その否定形式を修飾できないという点においては共通している。併し、例外も少しある。例えば、

- (50)*あの男は{少し/少々/多少/ちょっと}足りる(注13)。
- (51) あの男は{少し/少々/??多少/ちょっと}足りない。
- (52)*今日は{少し/少々/多少/ちょっと}お顔の色がすぐれる。
- (53) 今日は{少し/少々/??多少/ちょっと}お顔の色がすぐれませんが、どこか

悪いのですか。

(54)*この訳文は原文の意に{少し/少々/多少/ちょっと}合う。

(55) この訳文は原文の意に{少し/少々/?多少/ちょっと}合わない。

などのように肯定形式は共起できず、否定形式だけが程度副詞によって修飾される動詞もあれば、

(56)*{少し/少々/多少/ちょっと}済む。

(57)*少し/*少々/*多少/ちょっと済まない。

などのように肯定形式は程度副詞と共起できず、否定形式が<ちょっと>にしか修飾されることができない動詞もある。しかし、「注意する」「軽視する」などといった動詞のほかに、

(58)*風は{少し/少々/多少/ちょっと}吹かない。

(59)*日本料理は{少し/少々/多少/ちょっと}作らない。

(60)*今日は{少し/少々/多少/ちょっと}込まない。

のように、自然現象や動作・行為および状態などを表す動詞の否定形式がいずれも<少し><少々><多少><ちょっと>と共起できないことから、「足りる」「すぐれる」「合う」のように、否定形式でもって程度副詞と共起できる動詞は極めて少なく、特定のなものと言えるのであろう。

そして、「足りる」「合う」「済む」(注14)に対応する「足」「合」「对得起」などは中国語において、

(61)*{稍微/略微/多少}不足/不合。(「足りない/合わない」の意)

(62) 经费有点不足。(経費が足りない)

(63) 两个人的性格有点不合。(ふたりは気が合わない)

(64) 经费{稍微/略微/多少}有点不足。(経費が少し不足している)

(65) 两个人的性格{稍微/略微/多少}有点不合。(ふたりは気が合わない)

のように、否定形式でも「稍微」「略微」「多少」「有点」と共起できるものもあれば、

(66)*{稍微/略微/多少}有点对不起。(「済まない」の意)

(67) 有点对不起。(済まない)

のように「有点」だけが共起できるものもある。この中で、「不足」「不合」を限定するにあたって、「稍微」「略微」「多少」はそれぞれ「有点」を唯一の共起語句として、それと共に一つのフレーズを構成しなければならない。即ち「稍微有点」「略微有点」「多少有点」はそれぞれ複合的修飾構造として用いられ、その構造全体をもって被修飾語を限定することになるが、それにしても「不足」「不合」などにしか認められず、それ以外のものとは共起することができない。

「現代汉语八百词」(1984)、杨从洁氏(1988)(注15)は「有点」は「稍微」「稍稍」と共起することができる」と述べているが、それらが共起した場合、その構造や意味および共起範囲などについては説明していない。(64)(65)のように「稍微+有点/略微+有点/多少+有点」は重ねられることによって、確かに「有点」よりその程度性を強調することができるとはいえ、そのかわりに(67)のように「有点」だけは共起でき、ほかの程度副詞は共起でき

ないことから、後者の共起範囲はかなり制限されることになり、又共起できるものでも「有点」はその中において大きな役割を果たし、「稍微」「略微」「多少」は「有点」にたよって被修飾語と関りを持つことは間違いない。

一方、<少し><少々><多少><ちょっと>は、

(68)*(経費は){少し/少々/多少}ちょっと足りない。

(69)*(この訳文は原文の意に){少々/多少/ちょっと}少し合わない。

などのように程度副詞同士では共起することができない。日本語の程度副詞にはいずれも排他的性格を持っており、互いを受け入れることができない。この点においては中国語と対照的である。

4. まとめ

以上述べたことを整理すると、以下のようにまとめられる。

両語の程度副詞にはいずれも共起制限のあるものをもっているという点では、共通しているが、共起条件が厳しく、しかも共起語句の種類が多様で複雑であるという点では、中国語は日本語と大いに違っている。量的要素を不可欠にしている中国語の程度副詞と比べれば、日本語の程度副詞はそれだけで被修飾語を限定することが多く、形式的制限は極めて少ない。従って自由度が高い。中国語の程度副詞は数多くの動詞の肯定形式と否定形式を修飾し、肯定・否定の程度を共に表すことができるのに対し、日本語のそれは動詞の肯定形式を修飾するに止まり、その否定形式は修飾することができない。改まった場面や丁寧な表現に使われた場合は、日本語の程度副詞には文体差と位相差がよく見られ、文脈によってニュアンスが違ってくる。中国語の程度副詞にはそういう差異ははっきりせず、日本語と大きく異なっている。

<注>

- 1、ここに挙げた副詞は、沖久雄氏(1983)の「小さな程度を表す副詞のマトリックス」では考察語として扱われている。
- 2、本稿では取り扱う対象語を以下、考察語と呼ぶ。考察語についての論考はほかにもあるが、紙幅の都合上、代表的な論だけを紹介しておく。以下同じ。
- 3、詳しくは『基礎日本語辞典』を参照されたい。
- 4、{一}{二}は名詞の例。
- 5、前掲「少し」についての記述を参照願う。
- 6、本稿と関係のある内容だけを引用し、例文は省略。以下同じ。
- 7、詳しくは丹保健一 1981「程度副詞の諸相」(『国語研究』第21集)、沖久雄 1983「小さな程度を表す副詞のマトリックス」(渡辺実編 1983『副用語の研究』p199-215)を参照されたい。
- 8、本稿では程度副詞が被修飾語と共起できないものは「*」、意味的には共起できながらそのままでは用いられないものは「#」、そしてかなり不自然な感じを与えるものは「??」、それほどではないが多少不自然な感じを与えるものは「?」でもって示す。

9、<ちょっと>は又、婉曲的な表現に用いられることがあるが、その用法については別稿に譲ることとする。

10、この二つの例文を御提供下さった梅林博人氏に深く感謝する。又、日本語の副詞について色々お教えくださった院生の皆さんに厚くお礼申し上げます。

11、日本語では、動詞の否定形式とよく共起する副詞は<少しも><ちつとも><全然><まったく>などが挙げられる。

12、詳しくは『语言教学与研究』1985年第3期(p32)。

13、「*あの男は足りる」「*今日はお顔の色がすぐれる」というような表現は日本語ではなされないが、否定形式との対照のため、ここに挙げることをお断りしておく。

14、「すぐれる」に対応すると見られる「好」は中国語では形容詞となっている。

15、詳しくは『语言教学与研究』1988年第3期(p71)。

参考文献

中国語

呂叔湘主編 1984『現代漢語八百詞』商務印書館

馬真 1985「"稍微"和"多少"」『语言教学与研究』第3期

楊從浩 1988「不定量詞"點"以及"一點""有點"的用法」『语言教学与研究』第3期

姜匯川 許皓光 劉延新 宋鳳英編 1989『現代漢語副詞分類實用詞典』對外貿易教育出版社

日本語

丹保健一 1981「程度副詞の諸相」『國語研究』第21集

沖久雄 1983「小さな程度を表す副詞のマトリックス」渡辺実編『副用語の研究』所収
明治書院

森田良行著 1989『基礎日本語辞典』角川書店

飛田良文・浅田秀子 1994『現代副詞用法辞典』東京堂

(shi wei guo・東京都立大学大学院生)